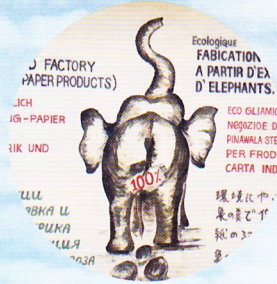


# 難民からまなぶ 世界と日本



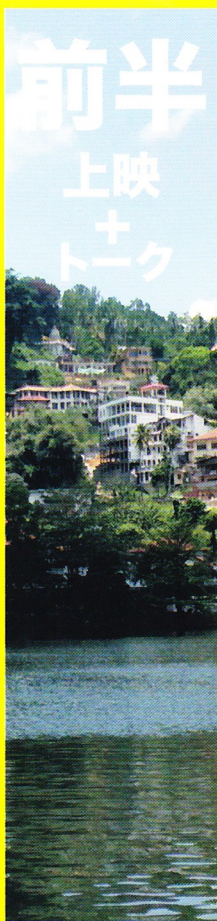
## スリランカ編

2015年 6月 13日 土 14:00 ~ 16:00

早稲田奉仕園会館 BF リバティホール (定員 80名)

【参加費】 800円 【主催】 移民・難民からまなぶ会

【問合せ / 参加申込】 E-mail: [iminnanmin@gmail.com](mailto:iminnanmin@gmail.com)



前半  
上映  
トーク

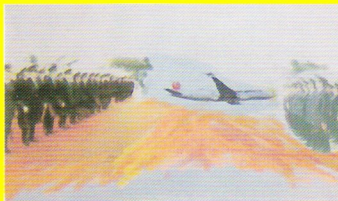
# 消えたドンさんの2日間

— スリランカ難民申請者の集団送還、知られざる実態 —

日本での難民申請者は急増し、今や 5000 人に達している。ところが、その 99% 以上は不認定となる。その後、彼/彼女らに待ちかまえているのは、強制収容と強制送還である。

2014年12月17日、複数の難民申請者が法務省・東京入国管理局に出向いた。すると、いきなり手錠と腰縄をつけられ、誰にも連絡できないまま、翌日にはスリランカへ強制送還された。裁判をうける権利さえはく奪されていた。本国到着後、彼/彼女らは空港外に放りだされ、なかには刑務所に入れられた人もいた。

強制送還されたスリランカ人のドンさんらを追いかけて、私たちは現地へ向かった。今年4月に調査した最新映像で、強制送還の実態にせまる2日間の物語。(本編 20分)



後半  
上映  
トーク

# 人生最後まで忘れない。 ～スリランカからの声～

本国スリランカの果てしない争いから逃れ、日本で暮らしていたスリランカ人たち。日本政府に保護を求めながら農家や工場ではたらき、日本社会の底辺をささえていた。生活費をきりつめてのつましい日々。日本の戦後復興や高度技術をまなび、スリランカ社会に平和をもたらすことが夢だった。敬虔な仏教徒としてお寺で祈りをささげ、広島や長崎の原爆被害にも、心をいためていた。

しかし突然の強制送還で、夢も日本での暮らしも断たれてしまった。本国へ送還された後、難民申請者たちが口にするのは、日本人への感謝の気持ち、「人生最後まで忘れない」。心の交流が、スリランカ人と日本人とのあいだで、確かに芽生えていた……。

私たちの身近にいる難民申請者たちの日常と、スリランカとはどんな国なのかを映像と語りで2人が伝えます。

## 山村 淳平 (医師)

90年代にアジア・アフリカにおいて、被災民・難民救援活動に従事する。2000年代から国内の非正規滞在者/難民申請者の支援にとりくむ。編著書に、『壁の涙』(現代企画室)、DVD版『壁の涙』(CTIC)、『難民への旅』(現代企画室)、『移民・難民の病をふせぐ』(CTIC)。



## 中村 俊平 (慶応大学4年生)

これまで18カ国を旅する。南米コロンビアで難民との出会いをきっかけに、難民に関心をいだけ。大学ゼミで、民族紛争を研究テーマとしてとりあげる。

早稲田奉仕園 [www.hoshien.or.jp](http://www.hoshien.or.jp)  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-1

- 東京メトロ東西線 早稲田駅より (徒歩約5分)
- 東京メトロ副都心線 西早稲田駅より (徒歩約8分)
- JR 山手線・西武新宿線 高田馬場駅より (バスで約10分)

